



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



テーマ【 水 】

設定した理由・背景

子どもたちの一番身近にあり、当たり前にある水に焦点を当てることで、様々なことに気づき、探求する力を育みたかったため。

用意した環境設定

・子どもたちが川の水に触れたり、金魚の水槽等、興味のある水の場所を調べられるようにした。（お泊りキャンプの活動を含む）

・購入物品

水質検査キット、モバイル端末、スクリーン

活動のあゆみ

8月1日～5日

午後の活動の時間に、川の話をする中で、水についての問いを子どもたちに話した。

8月6日～7日：アメリカキャンプ村にて実際に川辺に行き、水の流れや冷たさなどを体験する。

3月：水についての問いを改めて行い、どこから水がやってきて、どこに行くのか子どもたちが自ら考えた。身近にある水を集め、目に見えない違いを試薬など用いて調べる。

※探究活動の実績※

①お泊り保育で行う予定の川遊びの説明から、どうして川には水が流れているのかや、身の回りにはどのような水があるのかを問いかける。

↓

②考えたことがなかったのかわからないという子どもや、雨が降っているからだという子どもがいた。どこに水があるか考えてみようと言掛けをすると、意識的に身近な所を考えていた。

↓

③子ども自身で水についての考えを話し合い意見を出し合い、調べてみたい場所の水を採集する。予想と異なる結果が出ると驚いたり、なぜそうだったのか考えていた。

↓

④水に対する関心が高まっており、水道を出しっぱなしにすることが少なくなり、お互いに水を大切にするように友だち同士で声をかける姿も見られた。活動の様子は職員会議で保育者と内容を共有し、保護者には、一連の活動の様子を写真にまとめ、玄関掲示を行うと共に、口頭で個々の様子を伝え共有を行った。



水はどこからやってくるのか、動画で学ぶ姿



身近な所にある水を採集しているところ



集めた水を試薬を使って、きれいな水かどうかを見比べているところ

まとめ

保育者が思う以上に子どもたちが興味を持ったことを考えたり、想像したりする姿が見られた。水というテーマだったこともあり、水の循環についてや、水の汚れについてなど方向性が様々な向き、子どもにとっては様々な気づきがあった。もう少し項目を絞っていくことで、より深い探究活動が出来る、子どもたちの気づきもより深まっていくのではないかと感じた。



テーマ【 色 】

設定した理由・背景

これまで、製作や塗り絵等で「色」と触れ合う機会が多くあったが、まだまだ様々な知らない色があり、身近で探究しやすいと考えました。

用意した環境設定

・活動時には子どもたちが自由になるべく制限がない環境を作りました。

・購入品

モバイル端末、絵具、筆、クレパス

活動のあゆみ

7月24日に活動を開始しました。

初めは、思い切り色遊びができるように、ボディペインティングをし、色を混ぜ合わせて遊ぶところから始め、戸外活動で植物の色を見たり、色水遊びを行うなど子どもたちが『色』の複雑さを知り、探究ができるように促した。

最終的に自分自身で考え、試しながら自由画を描いた。

※探究活動の実績※

①絵の具でボディペインティングをする中で、様々な色を混ぜ合わせ、どのような色の変化があるか見てみるよう声掛けをし、子どもたちが色に関心や気づきを得られるように活動をした。

↓

②赤と青を混ぜると紫になったり、たくさん色を混ぜると暗い色になっていたり、気づきがあることによって、子どもたち同士で声を掛け合ったり、考え、協力し合ったりしながら活動をする姿が見られた。職員の声掛けも子どもの興味が高まるよう配慮しながら声掛けを行った。

↓

③少しずつ色の配合でどのような色になるのかわかってくると、出来た色を混ぜて他の色を作ろうとするなど自分体で工夫したり発展させながら探究活動をする様子が見られた。

↓

④自由画等では、適当に色を混ぜたり塗ったりするのではなく、色合いや描きたい色を想像し、考えながら描く様子などが見られ、色に対する興味関心が高まっているようだった。保護者には活動時の様子をお迎え時などに、個々の様子を口頭で伝え、活動の様子や取り組みを共有した。



絵の具でボディペインティングをして色を混ぜている様子



色水を混ぜ合わせ、ジュース作りをして遊ぶ様子



絵の具、筆を使い自由に絵をかきながら色を塗っている様子

まとめ

思い切りボディペインティングをしたり、子どもたちがなるべく自由に取り組める環境を作ったことで、子どもたち自身が主体的に楽しみながら活動を行うことができたと感じる。

主に絵の具等で色塗ったり、描いたりする活動が多くなった。他にも様々な素材や道具を取り入れていくことで、活動の幅がより広がり探究活動が発展させていけると感じた。



テーマ【 自然との関わり 】
設定した理由・背景
自然が多い地域性ということもあり、様々な動植物との関わりを持つようにしてきたが、これまでの活動を活かしてより子どもたちの探求心を育んで行けるのではないかと考えました。
留意した環境設定
・園内外で、すぐに自然物を調べられるように図鑑を用意したり、持ち帰り、製作などに使用できるようにした。
・購入品
モバイル端末、拡大鏡、

活動のあゆみ
4月12日～3月31日
年間を通じて、戸外活動や制作活動、栽培などを行っている。
戸外活動ではカメラ、図鑑などを携行しその季節の植物や生き物の観察などを行う。

※探究活動の実績※
①公園にはどのような花や草があるのか探してみよう等と言葉かけする。
最初は一緒に図鑑で調べながら、子どもたちが興味関心を持てるような関わりを行った。
↓
②子どもたちが自然物に興味を持ち始め、子どもたち自身で新しい植物を発見したり、様々な場所にあるのを見つけたりするようになる。保育者は子どもの知りたい意欲や、見つけた喜びに達成感を感じられるような声掛けを行い、子どもが主体となって探究活動ができるようにサポートした。
↓
③セイタカアワダチソウの実験で、図鑑で調べたとおりに水に入れると泡立つのかを実験をした。初めは半信半疑な様子で、「泡立つのかな」と子どもたち同士で話をしていたが、実際に泡立つ様子を見ると喜んだり、興奮したりする様子が見られた。
↓
④様々な探究活動を行うことで、子どもたち自身で図鑑で調べたりする姿が見られるようになった。また、様々な自然物があることに気づきが出てきたり、四季によって変化する自然物にも気づきが出ていたりした。
活動の内容については、その都度活動報告として職員間で内容を共有し今後の意見を出し合う。保護者には写真を玄関掲示したり、保護者会で活動内容を報告するなどし、共有を図った。



図鑑を手に、戸外活動で花を見つけた際の様子



セイタカアワダチソウが実際に泡立つのか実験している様子



戸外活動で好きな落ち葉を拾い、落ち葉スタンプをしている様子

まとめ
年間を通じて、自然物との関わりをテーマにして探究活動を行った。最初の頃は、草、花、簡単な虫等の違い程度の認識だったが、少しずつ様々違いに気づき始めていた。子どもたち自身が興味・関心を持つようになってくると、活動が徐々に主体的になっていき様々な気づきが出た。
日常の中の身近なものをテーマにしたことで、子どもたちも楽しみながら行うことができた。